

第2章 まちづくりに対する意見

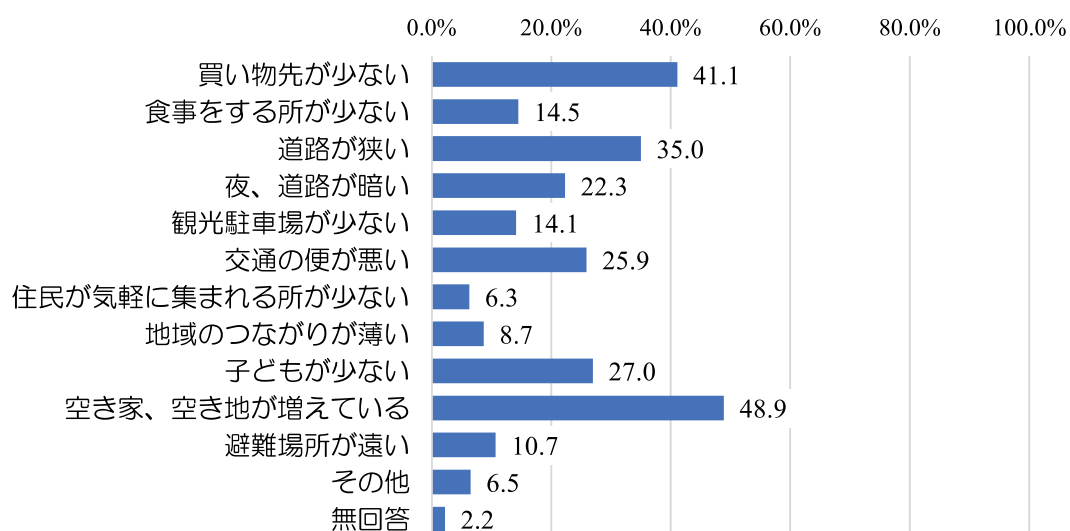
1. 地区内住民及び各種団体の意向

(1) 住民アンケート

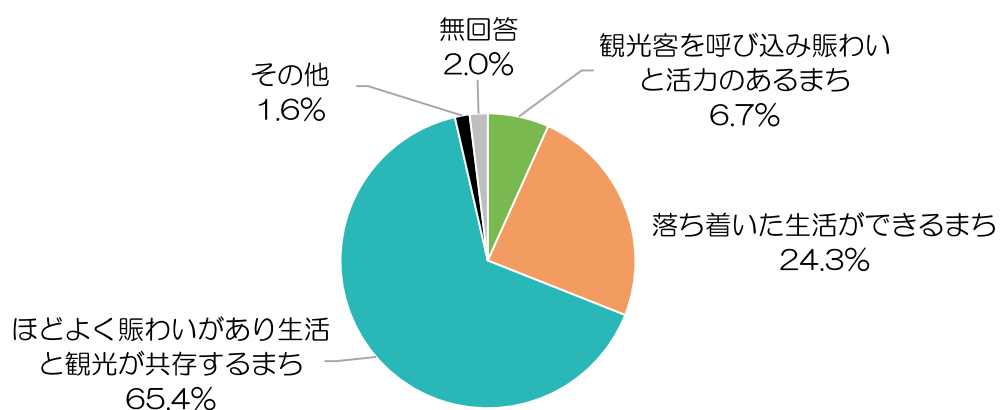
■調査概要

- <対象者> 龍野地区に現在住み、営業などを行っている各自治会加入者
全 1,621 世帯
- <実施期間> 令和2年12月28日～令和3年1月12日
- <回収数> 総回答数 448 件 回収率 27.6%

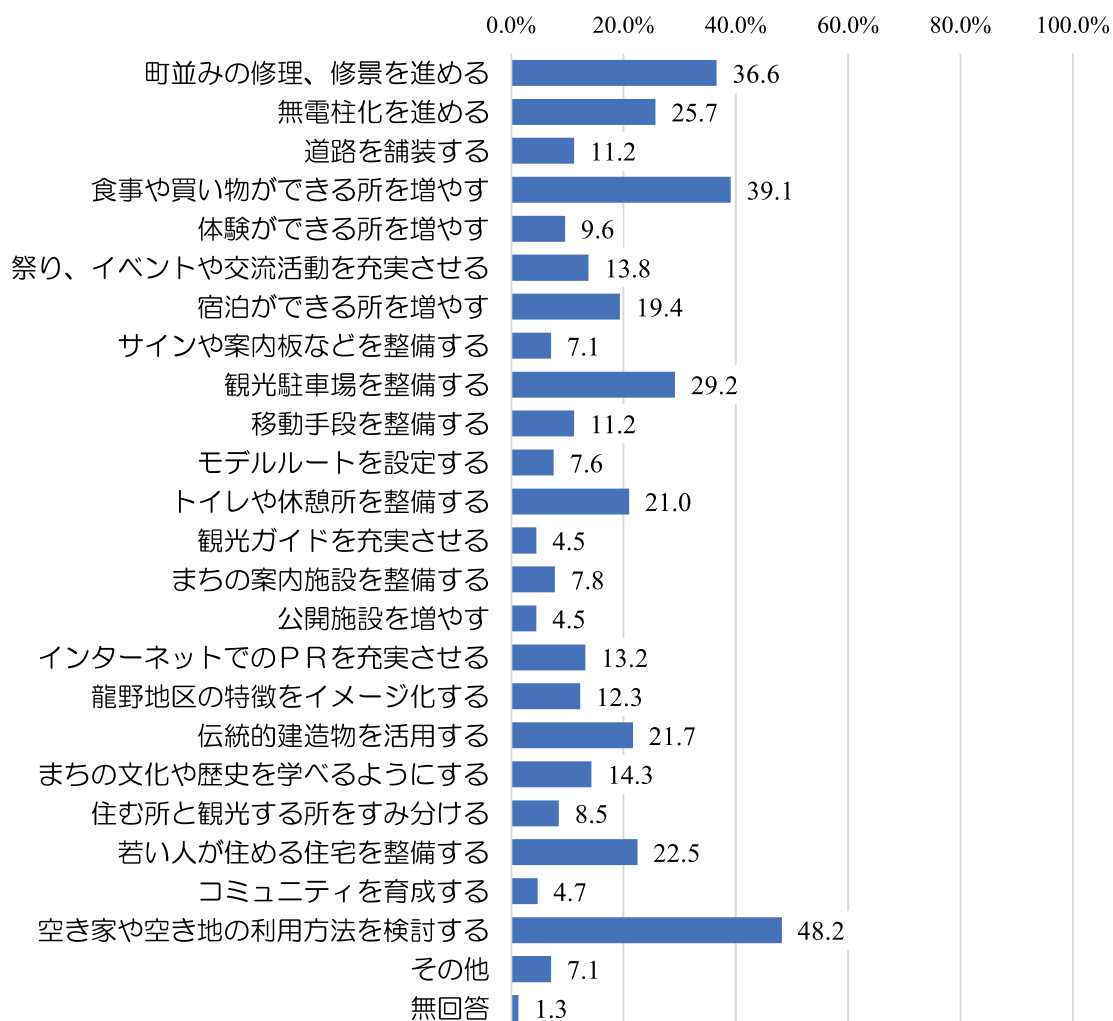
①現在の龍野地区の課題について



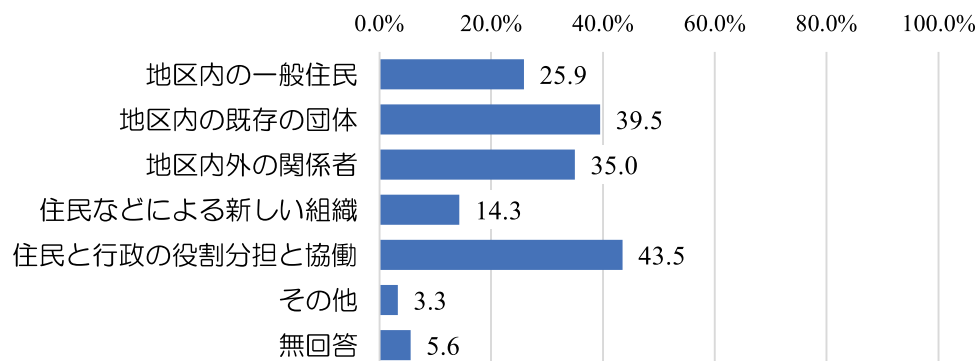
②めざすまちについて



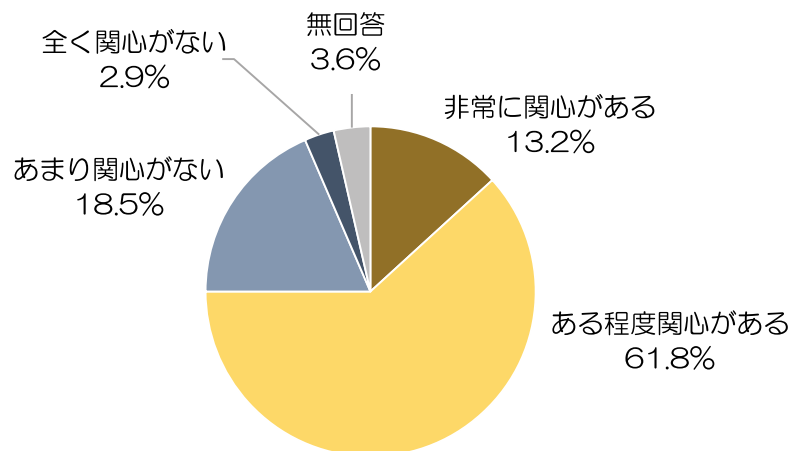
③将来像の達成に向けた必要な取組について



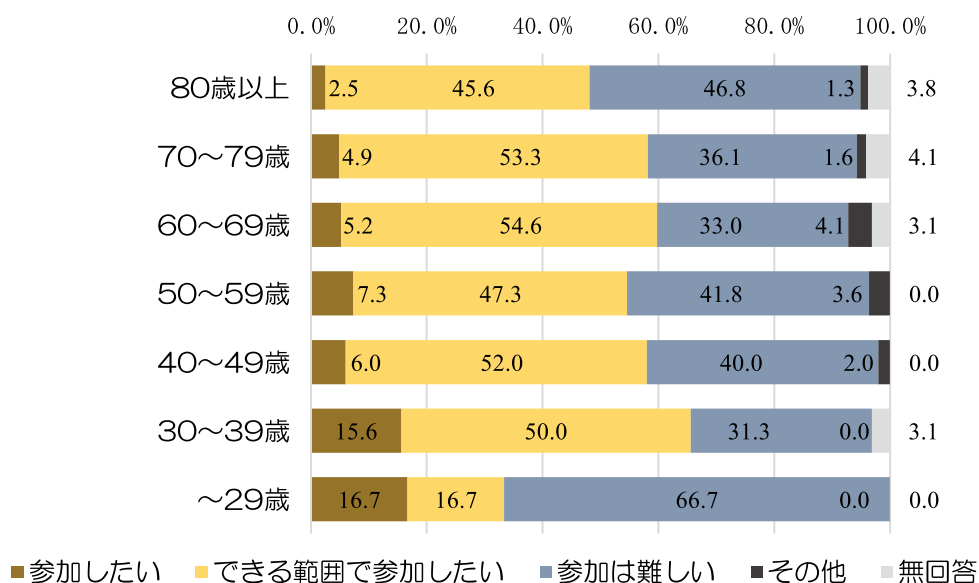
④まちづくりを進める主体の形成について



⑤まちづくり活動への関心について



⑥まちづくり活動への参加意向について



自由意見

◇まちづくりについて

- ・少数の興味ある観光客が土地や人を通して日本の文化を深く体験する、それこそが龍野地区でしかできない観光のあり方である。
- ・観光も大切だが、住みたいまちになってほしい。

◇若者定住

- ・新しい世代に龍野地区に入ってもらうための努力が必要である。

◇文化・学び

- ・誇れる文化をしっかりと継承してください。

（２）自治会・地区内団体への聞き取り

■調査概要

＜実施団体＞ 自治会、各種地区内活動団体

１．地区内の現状について感じていること

- ・静かで風情があり、住むには良いところ
- ・老人会や婦人会が解散し、住民同士の交流やコミュニケーションの場が減っている
- ・龍野小学校は地域の誇りだが、子どもの数が減っている
- ・住民の日常生活の中に根付いている文化が龍野地区の魅力の一つとなっている

２．龍野地区が今後めざしていくべきまちの姿

- ・あらゆる世代が住みやすいまち
- ・「住む」と「観光」が共存し、ほどよく賑わうまち
- ・来訪者と気さくにふれあい、おもてなしができるまち
- ・龍野地区の歴史や文化を尊重する人が訪れ、ゆっくり歩いて回れるまち
- ・市民が誇りを持って暮らせるまち

３．龍野地区の課題となっていること

- ・まちづくりに取り組む各種団体の活動がバラバラで、横の連携と情報共有が不十分
- ・住民の高齢化が進んでおり、マンパワーが不足している
- ・新しい店が増えているが、自治会活動の活性化につなげていない
- ・自治会費や活動費が窮屈で補助金を頼らざるを得ない
- ・重伝建地区、景観形成地区、それ以外の地区の間で意識に差がある
- ・若い世代への文化の継承
- ・赤とんぼ荘や旧龍野実業高校跡地の活用

４．取り組むべき方策

- ・建造物の保存と活用を進め、龍野地区全体に賑わいをもたらすことで生活を向上させる
- ・観光を手段として雇用や収益を生み、地域の経済が継続して潤う仕組みをつくる
- ・新たに店を出す人や移住者にも地域の活動に協力してもらう仕組みをつくる
- ・観光駐車場を整備し、交通規制などで観光客の車での入り込みを規制する
- ・観光客が利用できる店を増やし、住民の買い物の利便性も向上させる
- ・教育や体験を通して文化や風習を受け継ぐ
- ・若い人や女性も参加しやすい環境をつくり、まちづくりの担い手を育成する
- ・住民が主体となり、各種団体の連携を図るプラットフォームをつくる

■各自治会への聞き取り調査の結果

上霞城

人口：75人 世帯数：39
 ・高齢単身世帯が4分の1を占める。
 ・若い世帯はまちの宝である。
 ・龍野地区に住み続けたい住民の気持ちを大事にしたい。

中霞城

人口：205人 世帯数：95
 ・お年寄りが安心して暮らせて、若者を惹きつけるまちにしたい。
 ・防災、獣害対策が必要である。

下霞城

人口：150人 世帯数：66
 ・安全安心で文化の薫りがするまちをめざしたい。
 ・住民がより良い生活をするための住環境が必要である。

日山

人口：494人 世帯数：199
 ・住民同士の交流を大切にする。
 ・新規住民やお店も自治会に入ってほしい。

日山山下

人口：911人 世帯数：367
 ・コミュニティは比較的希薄である。
 ・人口は増えている（10年で約3倍）。
 ・旧市街地の隣で良好な住宅地である。

日山住宅

人口：164人 世帯数：100
 ・最大で162世帯となるが、今は建て替え予定のため募集を一時停止している。
 ・重伝建は地区全体のイメージアップになっている。

日山河原

人口：244人 世帯数：105
 ・若い世代が定住できるよう働く場が必要である。
 ・ヒガシマル第二工場を活用するべきである。

北龍野

人口：351人 世帯数：156
 ・龍野実業高校跡地活用が願いである。
 ・避難所や買い物先が遠い。
 ・観光客誘致よりも、静かに住みたい。

大手

人口：104人 世帯数：51
 ・住民（高齢者）が休憩できるベンチなどがほしい。
 ・住民も利用できる飲食店がほしい。
 ・文化や伝統の誇りを生かすまちにしたい。

福の神・立町

人口：138人 世帯数：56
 ・高齢世帯が増加し、担い手が不足している。
 ・まちとのつながりを持った若い世帯が入り、向こう3軒両隣の精神のコミュニティを維持する。

龍野新町

人口：195人 世帯数：92
 ・高齢化が進み、空き家が多数ある。
 ・若い人の住む所や働き場所が必要である。

門の外・柳原

人口：92人 世帯数：49
 ・住民は静かなまちを望んでいるが、一方で賑わいも必要である。
 ・住む所と賑わいのゾーニングは必要である。

旭町

人口：113人 世帯数：54
 ・空き家が増加している。
 ・自治会役員の担い手がいない。
 ・住民同士の集まりが少ない。

上川原

人口：114人 世帯数：57
 ・明るく住みよい上川原をめざしている。
 ・高齢化率は35%である。
 ・文化や風習を継いでくれる人に住んでほしい。

水神町

人口：86人 世帯数：41
 ・水神さんを守る活動が最も大切である。
 ・龍野地区の中で最も高齢化が進んでいる。
 ・空き家を上手く活用するべきである。

下川原

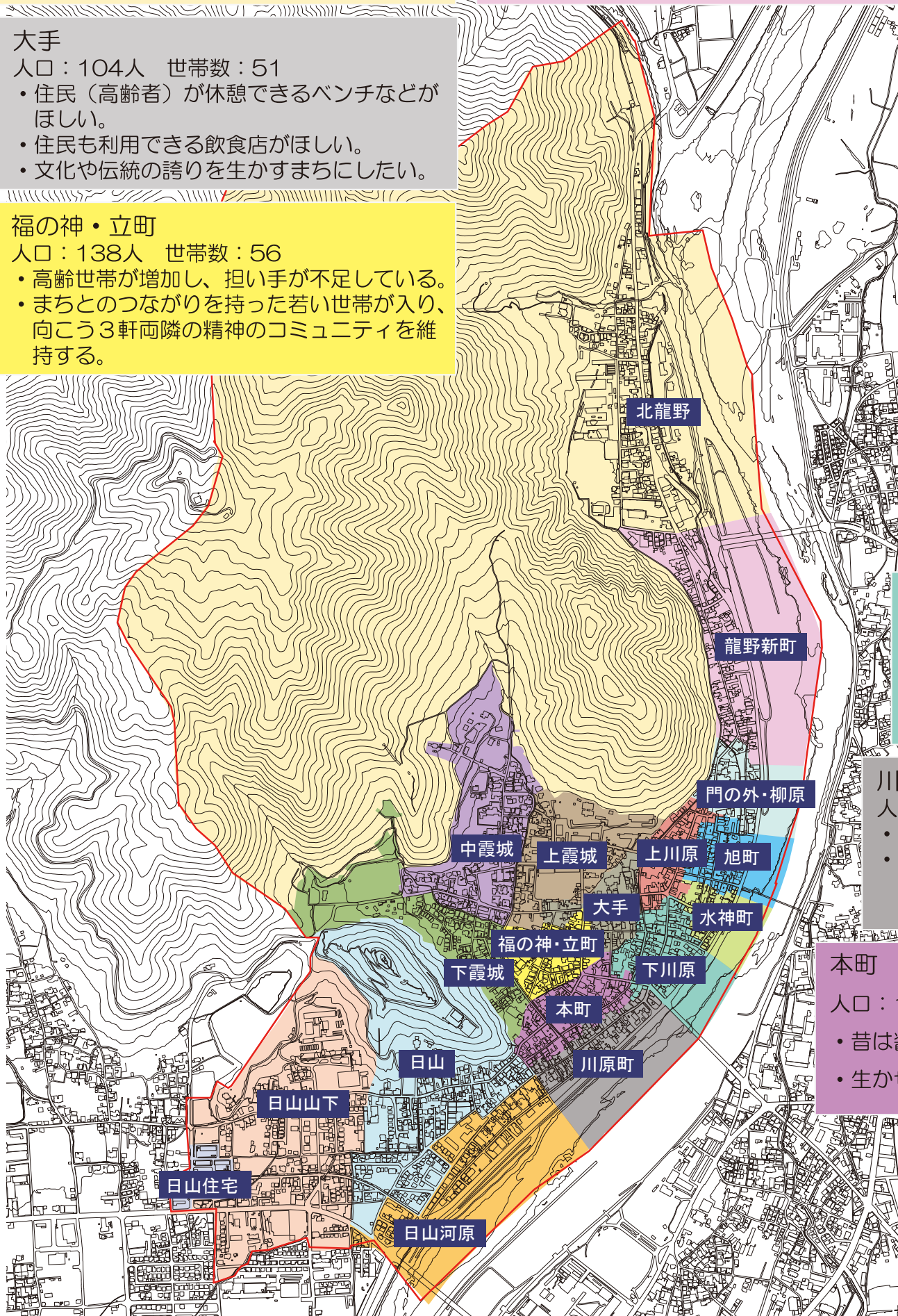
人口：169人 世帯数：63
 ・何をするにもマンパワーが不足している。
 ・人とのつながりを大事にするべきである。
 ・継続的にまちにお金落ちる仕組みが必要である。

川原町

人口：110人 世帯数：57
 ・比較的空き家の活用が進みつつある。
 ・地区内で新しくお店を開く場合は、自治会に加入してもらうことを前提条件としている。

本町

人口：157人 世帯数：83
 ・昔は醤油製造業が集積する醸造町であった。
 ・生かせる町家は、カフェ等に活用したい。



※人口、世帯数は令和2年9月現在の数値

2. 来訪者がみる龍野地区

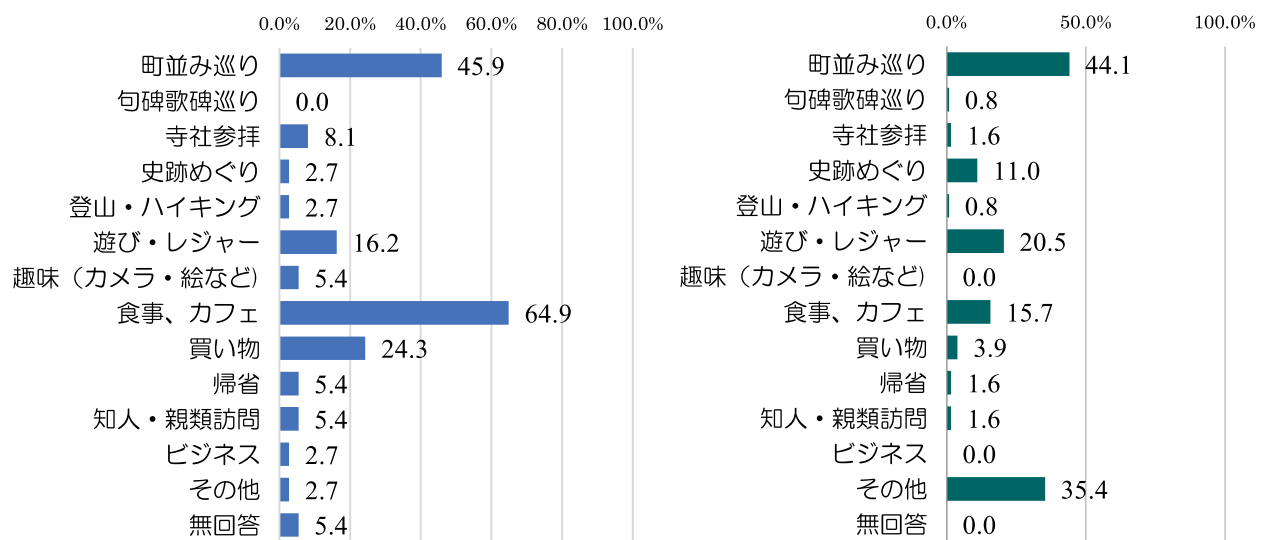
(1) 来訪者の意向

■調査概要

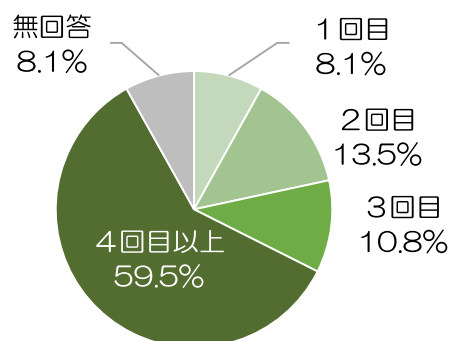
- <対象者> 龍野地区を訪れた人
 <実施場所> 地区内施設及び飲食店等に設置依頼、又はイベント時に聞き取り
 <実施期間> 令和2年11月22日～令和3年1月12日
 <回収数> 164件

①来訪の目的

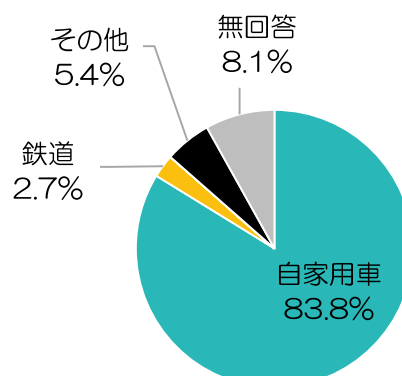
(参考：イベント時)



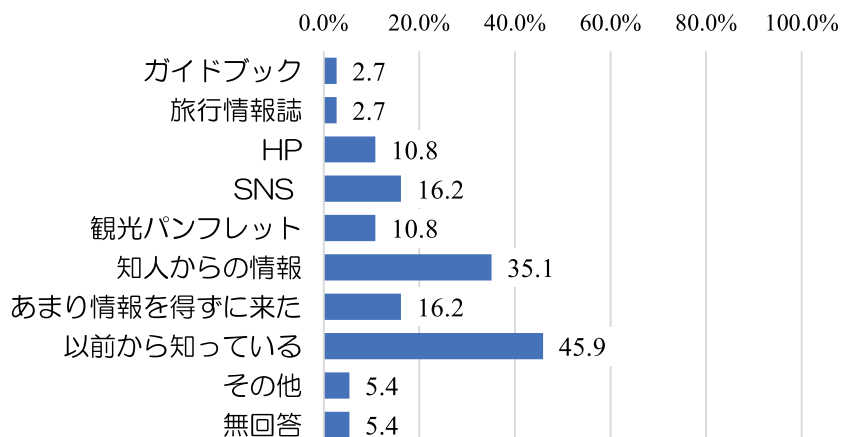
②龍野地区へは何回目の訪問か



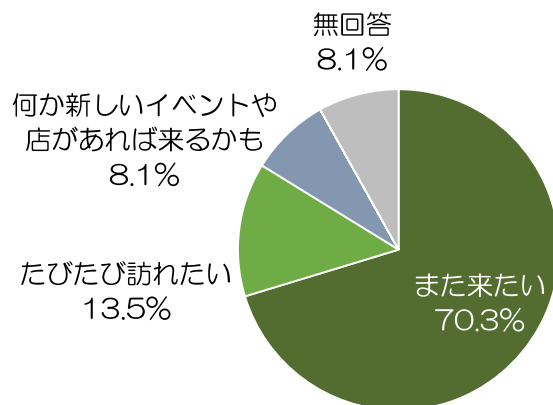
③利用した交通手段



④龍野地区に関する詳しい情報を何で得ているか

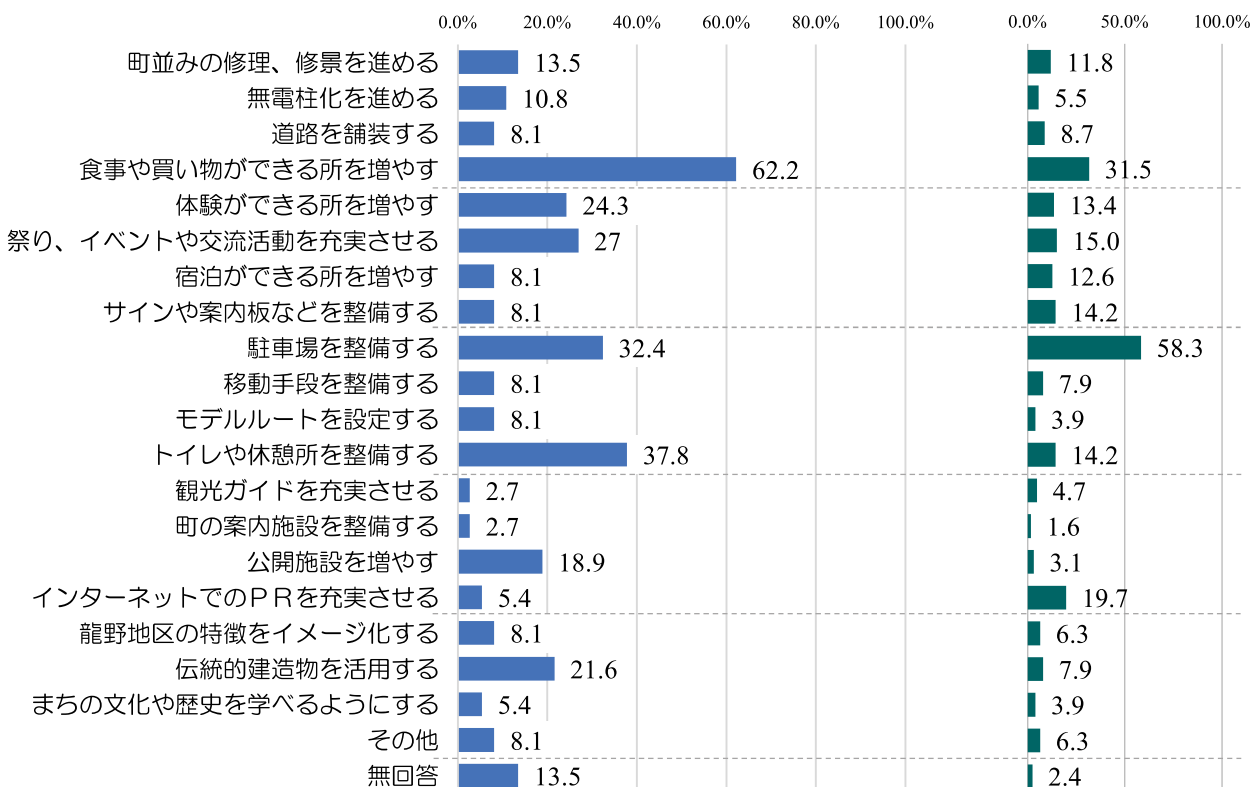


⑤再度訪れてみたいか



⑥魅力ある観光地としての取組について

(参考：イベント時)



⑦龍野地区を訪れてみて、不便に感じたこと

◇駐車場や交通について

- ・ 駐車場が分かりにくい
- ・ まちなかを通る車の速度が早くて危険

◇サービス・施設について

- ・ お店が分かりにくい、入りにくい、土日なのに休みである
- ・ 内覧できる建物がわからない
- ・ 宿泊できる場所がない
- ・ 見どころを説明する案内板を立ててほしい
- ・ トイレや休憩施設、授乳できる場所が分かりにくい

⑧自由意見

◇龍野地区の魅力

- ・ とても落ち着いた雰囲気があり、心が安らぐ
- ・ 想像以上に古い町並みが残っており、よく整備されて美しい
- ・ 本竜野駅から程よい距離でサイクリングがしやすい

◇ニーズ

- ・ 龍野地区でしか見られない、体験できない、食べられない、買えないものがほしい
- ・ 文化的価値が高いものの展示方法を工夫するべき
- ・ 醤油蔵や工場を一齐に開放して見学できるイベントを開催してほしい
- ・ たつの市の野菜や魚などが買える大きなお店があると嬉しい
- ・ 今のままでよく、あまり観光地化しないでほしい
- ・ ネットなどを活用して龍野地区の魅力をPRしてほしい
- ・ 公共交通機関でのアクセスを良くしてほしい
- ・ 駅にサイクリングマップを置いてほしい

(2) 事業者ヒアリング

事業者ヒアリング結果概要

■調査概要

＜対象団体＞ 旅行代理店等

1. 重伝建地区に対する観光需要の動向

- ・ 町並みに対する観光需要はあるが、重伝建地区に選定されただけでなく、住民、事業者、行政が三者一体となって、来てもらう工夫や仕掛けを考えることが重要である

2. 全国的に見る最近の観光需要

- ・ 最近の観光動向としては、食や伝統文化の体験が流行っている
- ・ 古民家を活用した宿泊施設やレストランは人気が高い

3. 龍野地区の観光の方向性

- ・ 大型バスでの団体の観光よりも個人で来て楽しむ観光が合っている
- ・ 需要が高まれば、姫路城とセットで回れるコースも考えられる

3. まちづくりワークショップ

(1) 第1回 まちづくりワークショップ

■開催概要

- <日 時> 令和2年12月6日(日) 13:30~16:00
<場 所> 中央公民館
<テーマ> 『龍野地区の現状と課題 生かすべき資源』
<内 容> ①自分のまちづくり活動の紹介と課題
②伝建を契機としたまちづくり



ワークショップの様子



各班の発表

①自分のまちづくり活動の紹介と課題

ビジョンについて

課題

- ・住民としては静かなまちにしたいが、重伝建地区としては集客効果が欲しい

必要な取組

- ・過剰に観光客が流入しないような交流人口の増加を図る
- ・観光と住民の暮らしを共存させる

組織間の連携について

課題

- ・まちづくりの活動がバラバラに行われている
- ・住民と行政で協働するべき

必要な取組

- ・各々の活動を取りまとめるプロデューサーをつくる
- ・ガイド×かどめふれあい館など、色々な連携を検討する

情報・発信について

課題

- ・情報が多すぎる
- ・情報が人によって違う
- ・情報の発信力が弱い

必要な取組

- ・外から見た龍野の魅力を明確化する
- ・店舗等とリンクさせたホームページを作成する

資金について

課題

お金が回るスキームを構築できていない

必要な取組

まちづくりファンドをつくる

空き家について

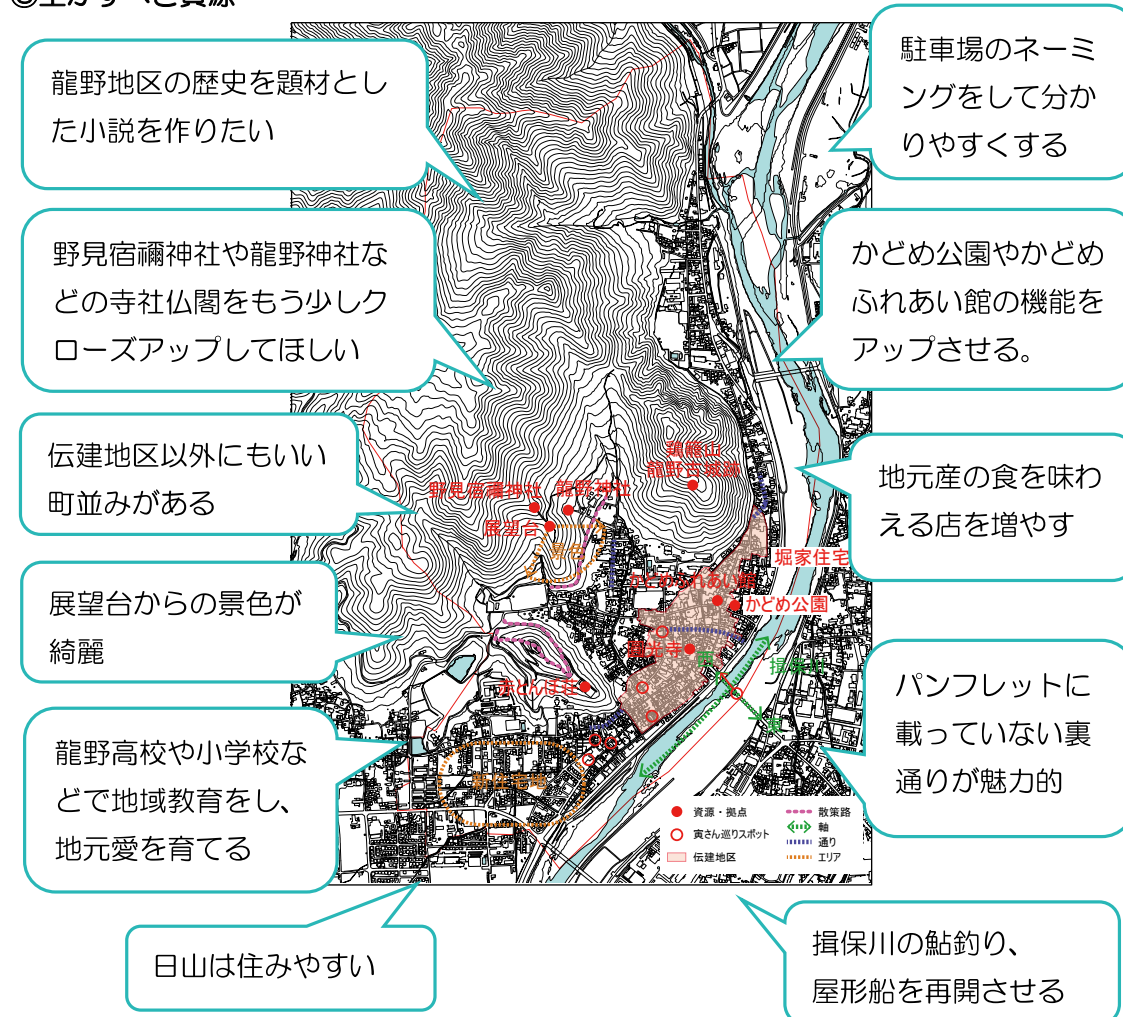
課題

空き家があっても活用できるものが少ない

②伝建を契機としたまちづくり

重伝建地区選定以降のまちの変化	
まち全体	・賑わいが出てきた ・人に「龍野行ってき」とお勧めしやすくなった ・他のまちの方々からの龍野地区に対する注目度が上がった
観光客	・シーズン外の観光客が増えた ・観光客の客層や買い物の需要が変化した ・まちの人がまちを知らないことが多く、案内が不足している
店舗等	・飲食店が増えている ・ランチはどの店もお客さんの入りが 1.5～2 回転している
交通	・車の通行が増えた ・駐車場が少ない

③生かすべき資源



(2) 第2回 まちづくりワークショップ

■開催概要

- <日 時> 令和3年2月28日(日) 9:30~12:00
 <場 所> 中央公民館
 <テーマ> 『龍野地区の将来像 取組の方策』
 <内 容> ①各種意向調査の報告と課題、将来像案
 ②龍野地区の将来像
 ③課題を解決するための方策



各種意向調査の報告



各班の発表

A班



B班



C班



D班



E班



①課題を解決するための方策

歴史・文化

生かす・育てる

- ・「龍野検定」を行い、龍野地区のPRを行う
- ・まち全体の歴史を物語にしてまとめる

体験

- ・有料で建物内部を見学できるようにする
- ・龍野地区を7日間で体験できる滞在型プログラムを企画する

教育

- ・龍野地区は昔から教育に熱心だったこともあり、歴史や文化を伝えるために教育を充実させるべき
- ・住民自身が龍野地区の歴史や自然を学べるよう、継続的に講座を開設する
- ・小中学校の授業で龍野地区のオリエンテーションを行い、子どもをきっかけとして周辺地区や大人を巻き込んでいく

学校

- ・龍野高校の人气が下がっているので、制服を変えるなどで魅力をアップさせる
- ・旧龍野実業高校跡地に「農業・観光」を中心とした学校施設を誘致する

暮らし

居住

- ・古い家を活用したお試し住宅を整備する（モデルルームなど）
- ・継続的に住民への意向調査を行う
- ・交通インフラを整備する
- ・住居や借家を龍野地区内で整理・再配置する

店舗

- ・住民向けの店舗（カフェ、雑貨屋、居酒屋など）を誘致する
- ・住民向けの店舗利用チケットを配布し、龍野地区内の店舗を利用してもらうきっかけをつくる

イベント

- ・龍野年間行事スケジュール表を作成する

町並み

価値

- ・言葉や絵などで龍野地区の価値を明確化し、価値を共有できるようにする

保存

- ・地元有力企業への支援を求める
- ・古民家を開放して見学できるようにする

空き家

- ・若者が住みたくなるように空き家をリノベーションし、PR する
- ・龍野地区内において、協働で空き家の片づけを行うサービスを開発する（有料）

賑わい

生かす

- ・龍野地区の暮らしや歴史を体験し、学べる観光の仕組みを開発する

演出

- ・川沿いの夜景をライトアップする
- ・竹灯籠で落ち着いた灯りをともす

情報発信

- ・龍野地区を舞台にした小説や芝居を創作する
- ・アプリや情報誌、You Tube などを活用し、情報発信ツールを開発する
- ・情報を一元化して積極的に情報を発信できるプラットフォームをつくる

案内

- ・案内板や解説板を整理し、分かりやすさと統一感をもって管理する
- ・かどめふれあい館を情報発信拠点とし、常駐者にはコンシェルジュを担ってもらう

出会う

- ・住民限定のまちなかバル（P65 参照）を開く

つくる（作る・創る）

- ・醤油や素麺を使った新しいアイテムを開発する
- ・古民家を改装した宿泊施設をつくる
- ・観光施設を明確化し、メインとなる場所をつくる

協働

団体間

- お互いの活動を共有し合い、連携と統合を推進する
- 手伝いの返礼でクーポンを贈呈するなど、龍野地区内の消費を呼び起こす

行政

- 駐車場や道路の整備、無電柱化を行う
- 歩くまちをつくる
- 自治体からの情報を発信する

地区間

- 小宅地区とも交流できるイベントを開く
- たつの市内の各地区ごとに役割をもって連携する

推進のために

組織

- 龍野地区内の団体の連携や統合を推進するための組織を検討する

財政

- 持続可能な運営を行うために、金融機関との連携等による資金確保を図る

②龍野地区の将来像

- 来訪者が訪れるようになると、住民同士、来訪者同士、住民と来訪者などの多様な出会いが生まれ、様々な楽しみや価値が生まれる。
- 地元住民が満足できるようなまちが基本で、それが観光にとっての魅力につながる。
- 住民の生活を守ることも重要であるが、ある程度観光に踏み切る覚悟も必要である。
- 龍野地区内で完結するのではなく、周辺地区への啓蒙や地区間・団体間等の繋がりを大切にするべきである。

まとめ

龍野地区の住民が豊かな暮らしに満足しつつ、まちに賑わいを取り戻し、住みやすいまちをつかっていくことが重要である。そして、そのようなまちの姿を見た来訪者にとっても、魅力的であるようなまちをめざしていきたい。

第3章 龍野地区のめざすべき基本方向

1. 龍野地区の現状と課題の整理

A：住民視点での課題

B：来訪者視点での課題

A1 少子高齢化の進行により、生活利便性が低下

龍野地区の現在の人口は、3,816人（令和3年3月31日現在）となっており、この30年で3割程度減少しています。また、龍野地区内の高齢化率は33.3%で3人に1人が65歳以上となっています。

市役所や官公庁が集積し、商店が軒を連ねていた頃には、龍野地区内はもとより周辺地区や新宮、山崎方面からも買い物客が訪れていましたが、大型量販店が小宅地区に立地したこと等により、龍野地区内の商店は減少の一途にあります。町家を活用した店舗が重伝建地区選定を機に増えつつありますが、龍野地区内の交通弱者の食料品や日用品の買い物先が不足し、生活利便性が低下しています。

A2 コミュニティの希薄化

龍野地区住民の高齢化に伴い、自治会によっては、老人会や婦人会などの活動が実施されておらず、定期的な集まりが行われていない地区も多くあるため、コミュニティの場は少なくなっています。高齢夫婦の二世帯や単身世帯も増える中で、日常の会話や近所同士の助け合いを促す環境づくりが必要です。

A3 空き家・空き地の増加

龍野地区内で把握されている空き家は、149戸ですが、各自治会への聞き取り調査によると、龍野地区内には高齢夫婦世帯や単身世帯も多く、後継者のいない世帯「空き家予備軍」が多く存在すると推測されます。このままでは龍野地区の空洞化が数年後以降に急激に進むことになるため、今の段階で方策を考えておく必要があります。

A4 まちづくりの担い手不足・各団体の連携が希薄

龍野地区内には、まちづくりを担う多くの団体が活動しており、それぞれ龍野地区が好きで「このまちをあらゆる世代が住みよいまちにしたい」、「龍野地区を訪れた人にこのまちを好きになってもらいたい」との強い思いを持って活動しています。しかし、各団体がうまく連携されておらず、情報共有の仕組みも確立されていません。各団体のまちに対する思いを汲みあげて、まちの活性化へとつなげるためには、これらの活動を俯瞰し、それぞれの情報を共有しながら、活動の相乗効果を生み出すことができる仕組みが必要です。

また、18地区のそれぞれの自治会において、すべての住民が明るく元気に住み続けられるまちをめざして、地区の清掃などの美化活動や住民同士のコミュニティ活動を行っています。高齡化が進む中で次代の担い手不足が深刻化しています。

A5 町並み保存・防災

令和で初めての重伝建地区に選定され、令和2年度から修理事業が始まり、今後も修理事業や修景事業が進んでいきます。重伝建地区への選定は、住民一人ひとりが、このまちの育んできた歴史や文化的価値を認識し、それを次世代に繋ぎたいという思いが大きなパワーとなって成し遂げられたことです。今後は、この町並みに対する思いや価値を多くの人に広げていながら、町並みを保存し、活用方法を考えていかなければいけません。

また、木造の町家が集積し、道路幅も狭い地区で安全・安心に暮らしていくために、防災や減災の取組を住民みんなで考え、実践していく必要があります。

課題解決のテーマ

山と川の自然に抱かれた、歴史・文化・伝統が暮らしに息づくまちづくり

暮らしの楽しみを実感できるまちづくり

重伝建地区の選定を契機とした町並み保存・活用のまちづくり

ふるさと感を共有できる、もてなし、つながりのあるまちづくり

ヒト・モノ・コトをつなぐ協働のまちづくり

B1 観光の見どころが分からない

龍野地区への来訪者の多くは、「再び訪れたい」という意向を持っており、町並みの散策や古民家を活用した飲食店を目的に訪れています。重伝建地区に選定されたことにより、来訪者も徐々に増加しており、今後も増加していくと考えられます。

一方、現状では見どころが分からずに、ただ、なんとなくまちを散策している人も多く見受けられます。これもまちの楽しみ方の一つではありますが、もっと深く龍野地区の歴史や文化を知ってもらうためには、来訪者のニーズに沿った案内や散策コースの提供などが必要になります。

B2 まちの情報が一元化されていない

本竜野駅に観光案内所が設置されており、JR姫新線を利用して龍野地区を訪れる人はここで情報を得ることができます。しかし、多くの人は自家用車で来訪し、市営駐車場等に車を停めて、そこから目的地へ徒歩で向かいます。地区内では、醤油の郷大正ロマン館で観光案内を行っています。また、まちの各所には案内板やサインが整備されていますが、情報が古いままのものも多く見受けられます。そこで、来訪者の現地での起点となる場所（市営駐車場や駅）からの案内板やサインの在り方を検討する必要があります。

龍野地区には、近年、町家を活用した店舗も増えていますが、町家の構造上、外からは見えにくく、予め情報がないと入りづらい雰囲気があります。マップなどでの情報提供や、統一されたサイン、掲示物で店舗の情報を知ることができる仕組みづくりが必要です。

B3 来訪者が利用しやすい案内所・トイレ・休憩施設等が少ない

多くの来訪者は、現地へ来てから情報を得ようとする傾向が見られます。こうした来訪者へ適切な情報を提供できる場が必要です。龍野地区内には、現在もまちの案内機能を持った場所が所々にありますが、来訪者にとって、より入りやすく、気軽に立ち寄れて情報を得ることができる案内所が複数必要です。

また、散策中のちょっとした休憩スペースや、分かりやすい場所のトイレ案内等もまち歩きには欠かせないものとなります。

B4 龍野地区の魅力を体感・体験できるところが少ない

地区内でお土産を買える場所は、クラテラスたつのやさくら路などがありますが、まち全体としては少ないのが現状です。来訪者の意向調査でも、ここでしか買えない物を購入できる場が欲しいという意見が聞かれました。来訪者ニーズを捉えた店舗の適切な配置、龍野地区らしい商品の開発を検討していく必要があります。

また、龍野地区のうすくち醤油や手延素麺は、全国でも知られる特産品ですが、地場産業を育んできた成り立ちも含め、その魅力に触れることができる場がほとんどありません。こうした龍野地区の魅力をまるごと体験・体感できる場づくりが必要です。

B5 駐車場が少ない

龍野地区内には、龍野公園駐車場や市営駐車場がありますが、駐車場がどこにあるか分からずに車で龍野地区内を回る来訪者が多く見受けられます。龍野地区内の道路は、住民の生活道路でもあることから、来訪者を周辺部の駐車場へ誘導し、龍野地区内をゆっくり歩いて巡るようなコース設定や案内が必要です。

また、今後の来訪者の増加に対応できる駐車場の整備も必要です。

2. 龍野地区の将来像

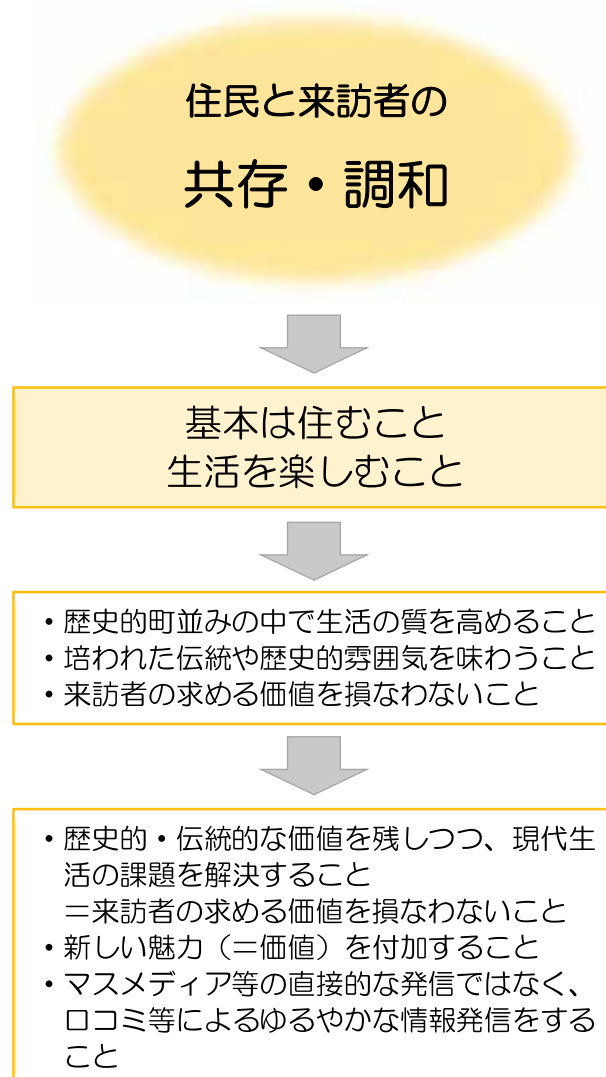
龍野地区まちづくりビジョンを策定するに当たり必要なことは、地区住民の描く将来像を明確にすることです。

そのため、地区住民へのアンケート調査や、自治会をはじめ様々な団体への聞き取り調査を実施し、その結果を通して地区住民の意思を明らかにしてきました。

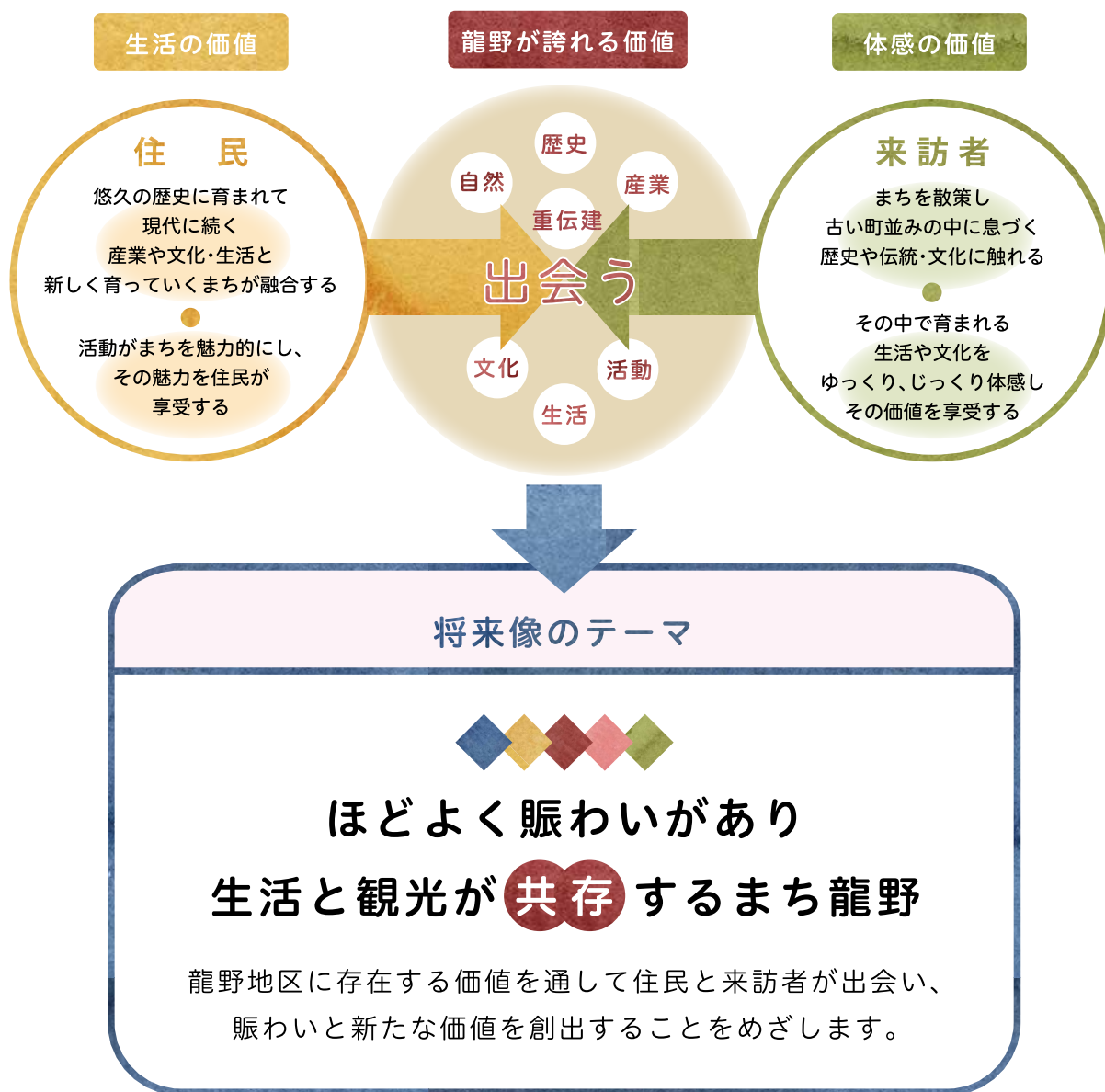
また、まちづくりワークショップを通して、各種団体等の交流や議論を積み重ねており、今後もこの活動は継続していくことになります。

重伝建地区やそれを取り巻く歴史的な地区、恵まれた自然環境は、龍野地区住民の生活の場であるとともに観光客が訪れる場でもあります。そのため、そこには、ほどよい賑わいが生まれ、住民の生活の価値と来訪者の体感する価値が交流し、共存します。その交流は、童謡の里にふさわしく、優しくゆったりとしたものになります。

加えて、そこにはしっかりとした経済活動が育ち、地区内で循環することによって、若い人たちが住みたくなるまちとなります。



将来像のイメージ



3. 龍野地区のまちづくりの基本柱

	基 本 柱	アクションプラン例
自然 歴史 文化	山と川の自然に抱かれた、歴史・文化・伝統が暮らしに息づくまちづくり ・鶏籠山、的場山、白鷺山の三山及び揖保川の自然環境を守り、景観を育む。 ・龍野地区の魅力である日常生活の中に根付いている文化（アート、茶道、発酵等）を磨く。 ・子どもへの教育・体験を通して誇れる文化を継承する。	・地区内の文化的価値があるものを調査し、それらを公共施設や民間施設で積極的に展示する。 B1 B4 ・次代を担う若者や子どもが地区のお年寄りから自然や歴史、文化について学ぶ機会をつくる。 A2 A5 ・龍野検定を実施する等、龍野地区の自然や歴史、文化等について学ぶ活動を推進する。 A5
暮らし	暮らしの楽しみを実感できるまちづくり ・食料品や日用品の買い物先の確保に努め、安全で安心な暮らし、生活の利便性を向上させる。 ・防災対策等を通じて、地区住民の調和を図り、コミュニティの育成を進める。	・交通安全性の確保や交通体系の改善に努め、生活利便性を向上させる。 A1 B5 ・地区住民が協働して、防災設備の整備や避難場所・避難ルートについて検討し、防災計画を策定するとともに、防災訓練を実施する。 A2 A5 ・地区住民の連携を強化し、生活の利便性を高めるための協働の取組を行う。 A1 A4
町並み	重伝建地区の選定を契機とした町並み保存・活用のまちづくり ・重伝建地区の制度を活用し、町並みを整備する。 ・景観のゾーンや道筋に配慮した町並み保全、修理・修景に努める。 ・空き家活用等により、移住者の住まいや活動の場を確保し、空き家の有効活用を図る。	・重伝建地区内の伝統的建造物の修理・修景事業を進め、町並み保存に努める。 A5 ・自治会が協力して、地区内の空き家分布図を作成し、それを基に空き家の有効活用を行う（地場産品直売所・公開施設・ギャラリー等）。 A3 A4 ・空き家を活用した公開施設を設置し、歴史的建造物の保存につなげる。 A3 A5 ・古民家を活用した飲食店等をPRし、若い世代の観光客を取り込む。 B1
賑わい	ふるさと感を共有できる、もてなし、つながりのあるまちづくり ・個人で訪れ、まち歩きをゆっくり楽しむ仕掛けをつくる。 ・重伝建地区をはじめ、質の高い歴史・文化・伝統に育まれた資源を生かす。 ・龍野地区の誇りを持った住民とその価値を理解する来訪者により観光・交流を推進する。 ・一元化した情報発信で龍野地区の魅力と価値をアピールする。 ・龍野地区全体のゾーニングを明確化する。	・観光ルートの設定や用途地域の見直しを行い、人の流れに合わせた地区内動線計画を作り、市営駐車場を整備する。 B1 B5 ・案内板や誘導サインを新しいものに更新していくとともに、パンフレットを発行し、一元化されたまちの情報を来訪者に提供する。 B2 ・地区内の歴史や見どころを説明するため、来訪者が利用しやすい観光案内所を地区内に設置するとともに、まち歩きARの充実を図る。 B3 B4 ・散策や回遊ルートにトイレや休憩スペースとなるまちかど広場、ベンチスペースを整備する。 B3 ・各団体が協力して、まちなかバル（P65参照）を開催し、まち歩きをゆっくりと楽しむ機会を創出するとともに、龍野地区の魅力を発信する。 A4 B4
協働	ヒト・モノ・コトをつなぐ協働のまちづくり ・地区や組織を超えた横のつながりをつくる。 ・活動を継続していく仕組みをつくる。 ・龍野地区全体で情報を共有する。 ・龍野地区と行政が協働する。	・地区内の団体が地区や組織の枠組みを超えて連携する、まちづくり運営組織を設立し、行政と役割分担を行い、地区が一体となって、まちづくりを推進する。 A4 B2 ・まちづくり運営組織により定期的な集まりを開催し、各団体の意見を吸い上げるとともに、情報を共有し、コミュニティを活性化させる。 A2 A4

まちづくり
推進のために

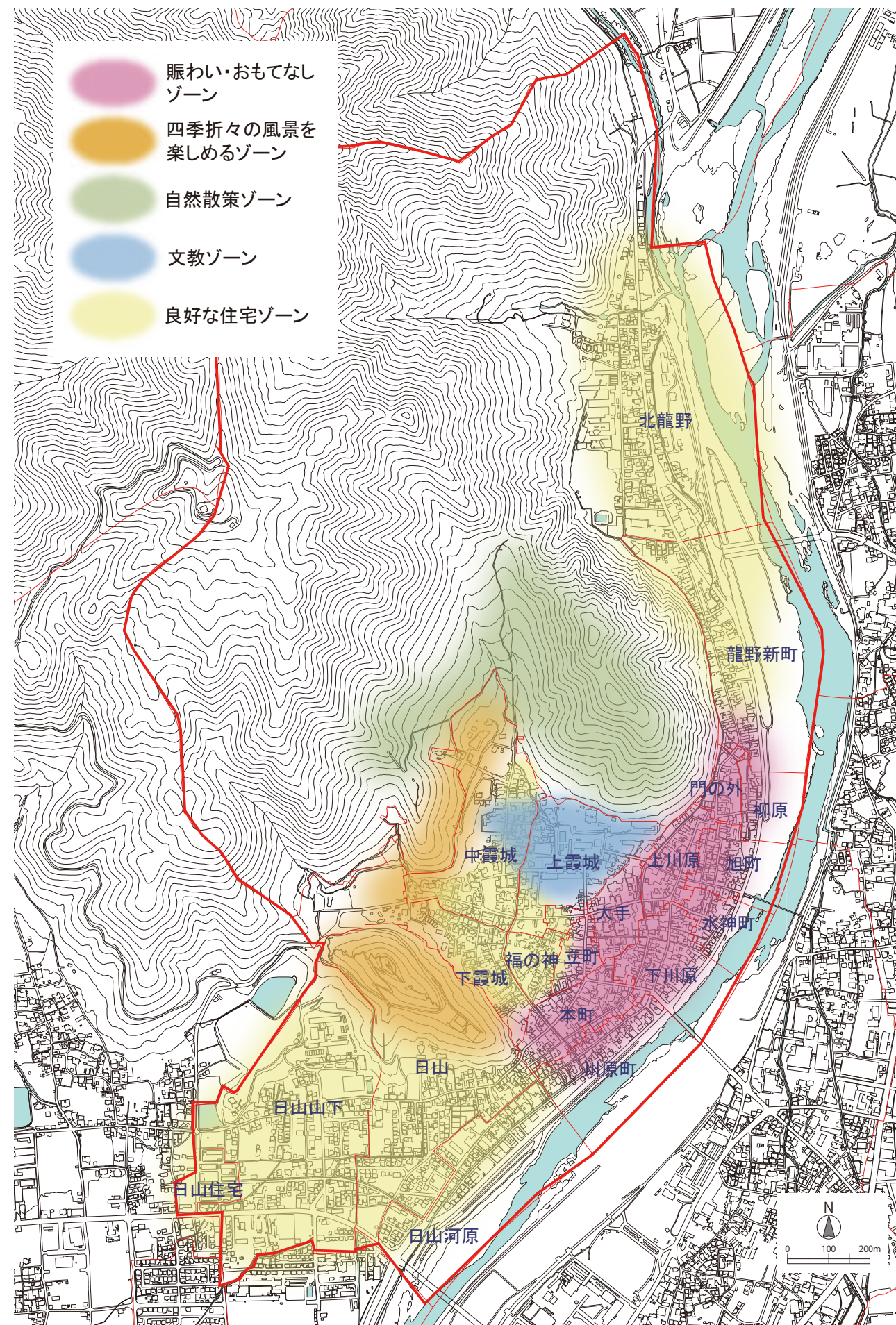
自然や歴史、伝統、文化、産業、人々の暮らしが息づく龍野地区の価値を地区住民自らが共有し、その価値を理解して、来訪者との共存を図ります。

そのためには、歴史や伝統の価値を残しつつ、その中で現代的な生活に対応するとともに、地区に新しい魅力を付加し、来訪者に龍野地区の価値を味わってもらうことが求められています。

本計画の将来像のテーマでもある「ほどよく賑わいがあり生活と観光が共存するまち龍野」を実現するため、地区内の個々の団体による活動の趣旨や役割等を尊重するとともに、それらが連携して新たな組織をつくり、互いに手を携えて龍野地区のまちづくりを推進していくことが必要です。

※ アクションプラン例の A1 B1 等の記号は、P.30における課題と各アクションプランとの対応を示しています。

4. ゾーニング



賑わい・おもてなしゾーン

龍野地区の中でも、店舗が多く集積するエリアで、町家を活用した新たな店舗、地元住民の交流の場、来訪者への案内拠点、公開施設などの充実を図るゾーンです。



四季折々の風景を楽しめるゾーン

龍野公園駐車場から聚遠亭にかけての文学の小径は、春には桜、秋には紅葉を鑑賞する人が多く訪れるエリアです。龍野公園や龍野動物園も含め、ファミリー層から活動的な中高年層まで幅広く風景を楽しめるエリアとして、案内機能の強化や周知を図るゾーンです。



自然散策ゾーン

龍野古城や野見宿禰神社などを含むエリアで、地元住民や来訪者が散策し、景色を楽しむことができるエリアとして、充実を図るゾーンです。



文教ゾーン

龍野小学校周辺は、龍野城や龍野歴史文化資料館をはじめとして、旧脇坂屋敷、霞城館などの文教施設が集積するエリアで、龍野地区の歴史や文化を深く学べるエリアとして、充実を図るゾーンです。



良好な住宅ゾーン

住宅が建ち並ぶエリアで、今後も良好な住宅地として、さらなる発展が期待できるゾーンです。

